



食育ってなあに？

正しい食生活について学んで、おいしく楽しく食べられる人を育てることだよ。



なぜ必要なの？

最近、朝ごはんを食べなかったり、同じものばかり食べたり、肥満や生活習慣病の人が増えたり、家族が別々にごはんを食べたりすることが増えているんだ。このままではみんなが元気なくなっちゃうよね。



どうしたらいいの？

みんなが元気になるように、作る、育てる、調理する、食べるなどの体験を通して「食べること」が好きになってほしいんだ。そのために、滋賀県のみんなが一緒に取り組むんだよ。

1. 子どもから大人まで生涯を通じた食育を推進します。

- * 家庭における食育推進
- * 学校・保育所等における食育推進
- * 地域における食育推進

2. 近江の食と風土をいかした食育を推進します。

- * 近江の食文化の継承
- * 地産地消の推進
- * 生産者と消費者の交流促進
- * 滋賀からの食育発信

3. 琵琶湖や身のまわりの環境と共生する食育を推進します。

- * 環境に配慮し、もったいないの心を育む食生活の推進
- * 琵琶湖に優しく安全安心な農産物の提供

4. 体験を通じた感動と共感をよぶ食育を推進します。

- * 地域、学校、保育所等での体験活動の推進
- * 農村地域の体験活動の推進

5. 県民との協働による食育運動を展開します。

- * 食育推進体制の整備
- * 情報の共有・発信
- * 食育推進活動者の育成
- * 食育推進運動の普及・定着

県民運動として



家庭では

家族そろって食卓を囲み、食に関する知識や食事のマナー、食べることの楽しさや感謝の気持ちを身につけていきます。



学校、保育所等では

すべての教職員・保育関係者が連携し、子ども達の成長にあわせて、食に関する様々な体験や給食そのものを重要な食育の教材として、食べ物と健康の関わり、食の大切さについて伝えていきます。



地域、団体は

県民が主体的に食育に取り組めるよう、地域資源を活かした食体験や食文化にふれる場を関係団体が連携して提供します。



生産者、食品関連事業者は

食べ物が食卓にたどり着くまでに、どこでどのように生産され、販売されているかがわかるための場の提供や体験学習の支援を行います。



滋賀県は

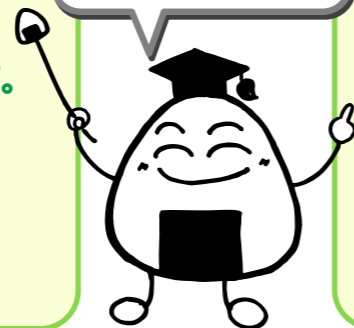
食育を県民運動として推進するために、必要な施策を展開するとともに、市町、関係団体、生産者、食品関連事業者等と連携をとりながら必要な情報の提供、人材の育成など食育活動を積極的に支援します。



市町は

県計画をふまえた食育推進計画の作成や食育推進会議の設置をすすめるとともに、関係者と連携しながらその地域の特性をいかした自主的な施策を展開します。

滋賀県では
こうするよ



数値目標（平成23年度までの目標）

食育に関心を持っている県民の割合
90%以上

朝食を欠食する県民の割合

小学5年生	3.8%	0%
中学2年生	9.2%	3%
高校2年生	11.5%	5%
男性 20歳～29歳	28.6%	15%
30歳～39歳	23.2%	15%
女性 20歳～29歳	17.5%	10%
30歳～39歳	9.7%	5%

肥満者（BMI 25.0以上）の割合

男性 20歳～69歳	23.8%	15%
女性 40歳～69歳	19.3%	10%

痩せ（BMI 18.5未満）の割合

女性 15歳～19歳	21.3%	15%
女性 20歳～29歳	23.5%	15%

学校給食における地場産物を使用する割合
15.5% 25%

環境こだわり農産物の栽培面積
5,865ha 12,000ha

農業体験の実施

小学校	181校	全小学校
地域	18集落	200集落

推進計画を策定している市町
3.8% 80%



どうなればいいのか？ 「みんなが元気でこころ豊かにくらす“おうみ”をめざそう！